

海外感染症流行情報 2015年3月号

・欧米諸国での麻疹流行

今年はドイツのベルリンで2月下旬までに600人の麻疹患者が確認されました(Europe CDC 2015-3/2)。これは昨年10月から旧ユーゴスラビア難民を中心に発生していた流行が拡大したものです。米国でもカリフォルニア州を中心に3月中旬までに176人の麻疹患者が発生しました(米国 CDC 2015-3/13)。このうち130人は昨年12月、カリフォルニア州のデイズニーランドで発生した流行に関連した患者です。

このように今年は欧米諸国での麻疹流行が相次いで報告されていますが、途上国でも麻疹は常時流行しています。日本では20歳代後半～30歳代の世代で麻疹の抵抗力が弱いとされており、この世代が海外に長期滞在する際には麻疹ワクチンの接種を受けておくことを推奨します。

・サウジアラビアでMESR(中東呼吸器症候群)の患者数増加

サウジアラビアでは2月8日～3月10日までに90人(25人死亡)のMERS患者が確認されました(WHO Global Alert and Response 2015-2/23, 2/26, 3/6, 3/11, 3/20)。患者の発生場所は首都リヤドが41人と最も多くなっています。感染経路としては、病院内での患者との接触が疑われるケースが40人で、ラクダとの接触が9人でした。今後もサウジアラビアなど中東に滞在する際にはMERSの感染に十分注意する必要があります。

・東南アジアでのデング熱流行状況

今年はマレーシアでデング熱の患者数が2万人を越えており、昨年に比べて46%の増加になっています(WHO 西太平洋事務局 2015-3/10)。患者数が多いのはクアラルンプル周辺のSelangor州で、日本からの滞在者も多い地域です。なお、シンガポールでは昨年よりも患者数が少なく、ベトナムではやや多い数になっています。タイでも2月末までに3,700人のデング熱患者が確認されており、バンコク近郊のRayongやSamutなどで患者数が増えています(Fit For Travel 2015-3/9)。

・エジプトで鳥インフルエンザA(H5N1)の患者数が増加

エジプトでは昨年末より鳥インフルエンザA(H5N1)の患者数が増加していますが、1月末から2月末までに66人の患者(13人死亡)が発生しました(WHO GAR 2015-3/3)。患者の発生場所は中部エジプトの広い範囲で、ほとんどの患者が発症前に家禽と接触していました。同国で短期間にこれだけ多くの患者が発生したことは過去にありませんが、WHOによればウイルスに大きな変異は見られていないとのこと。

・中国での鳥インフルエンザA(H7N9)の流行

中国では今年も2月に鳥インフルエンザA(H7N9)の患者数が増加しました(WHO GAR

2015-3/11)。1月21日～2月25日に確認された患者数は59人で、うち17人が死亡しています。地域別では広東省(35人)や浙江省(11人)で患者発生が多くみられます。8割以上の患者が発症前に家禽と接触していました。今年の患者数は昨年同時期よりも少なくなっていますが、3月に香港の研究者が発表したデータでは、このウイルスはヒトに親和性があり、今後、パンデミックをおこす可能性があるとのこと(Nature 201503/12)。

・カリブ諸国でのコレラ流行

カリブ海のハイチでは2010年の大地震以来、コレラの流行が続いており、73万人の患者が発生しました。2015年も2月末までに7,000人以上の患者が確認されています(Pan American Health Organization 2015-3/3)。隣国のドミニカでも2015年は首都のサントドミンゴなどで100人近い患者が発生しています。両国とも昨年同期に比べて患者数が増えている模様です。